

2013.11.12(火)

「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」

2013年総目次（102号～113号。全12号配信）

102号:2013.1.1（21頁+別ファイル）

1. 論文：今後の死亡急増で「死亡場所」はどう変わるか？
（「深層を読む・真相を解く⑨」『日本医事新報』2012年12月22日号（4626号）：26-27頁）
2. 談話：医療・社会保障費抑制圧力は強まるが、新自由主義的改革の全面的復活は当面はない（『日本医事新報』2012年12月29日号（4627号）：15頁。「自民圧勝—衆院選結果をどう見るか」）
3. インタビュー：参院選までは「安全運転内閣」か
（医療介護CBNews 2012年12月27日「重大ニュース・政権交代—どうなる？TPP交渉参加問題」佐藤隆彦）<http://www.cabrain.net/news/>
4. インタビュー：二木立・日本福祉大学副学長に聞く
（m3.comニュース・医療維新 年末年始スペシャル2012-2013 「医師作家」が語る医療 2012年12月26・28日。聞き手・まとめ：星良孝（m3.com編集部）
<http://www.m3.com/iryolshin/article/>
5. インタビュー：社会保障—主財源 税金ではない
（「中日新聞」2012年12月11日朝刊・知多版。「[衆院選]争点を読み解く—[愛知県知多]半島の専門家に聞く 上）
6. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算85回。2012年分その10：7論文）
7. 私の好きな名言・警句の紹介（その97）—最近知った名言・警句

103号:2013.2.1（28頁+別ファイル）

1. 論文：地域包括ケアシステムと医療・医療機関の関係を考える
（「深層を読む・真相を解く⑩」『日本医事新報』2013年1月19日号（4630号）：30-31頁）
2. 論文：21世紀初頭の都道府県・大都市の「自宅死亡割合」の推移—今後の「自宅死亡割合」の変化を予想するための基礎作業
（「二木教授の医療時評（その109）」『文化連情報』2013年2月号（419号）：16-27頁）
3. インタビュー：総選挙後の医療・社会保障政策を読む—参院選までは「安全運転」
（『国際医薬品情報』2013年1月28日号（第978号）：21-28頁）
4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算86回。2012年分その11：5論文）
5. 私の好きな名言・警句の紹介（その98）—最近知った名言・警句

104号:2013.3.1（17頁）

1. 論文：地域包括ケアシステムと医療・医療機関の関係を正確に理解する
（「二木教授の医療時評（その110）」『文化連情報』2013年3月号（420号）：12-16頁）
2. 日本福祉大学学長就任前のご挨拶
（「東京医科歯科大学お茶の水会医科同窓会会報」第257号（2013年2月28日号）：13頁）
3. 最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介（その25）：7冊
4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算87回、2012年分その12：7論文）
5. 私の好きな名言・警句の紹介（その99）－最近知った名言・警句

105号：2013.4.1(17頁)

1. 論文：「麻生発言」で再考－死亡前医療費は高額で医療費増加の要因か？
（「深層を読む・真相を解く(21)」『日本医事新報』2013年3月9日号(4637号)：30-31頁）
2. 論文：規制改革会議の「保険外併用療養の拡大」方針を冷静に読む
（「二木教授の医療時評（その111）」『文化連情報』2013年4月号（421号）：20-23頁）
3. インタビュー：TPPは私たちの医療をどう変える？
（「朝日新聞」（東京版）2013年3月14日夕刊。東京都医師会の意見広告「人と医療の未来のために Vol.1」）
4. 新著『福祉教育はいかにあるべきか？－演習方法と論文指導』（勁草書房,2013年4月1日発行,¥2500+税）の「はしがき」と章立て
5. 日本福祉大学講師懇談会・全体懇談会での挨拶（2013年2月26日）
6. 大学院「入院」生のための論文の書き方・研究方法論等の私的推薦図書私的推薦図書（2013年度版、Ver 15）より
7. 私の好きな名言・警句の紹介（その100）－最近知った名言・警句

106号：2013.5.1（28頁＋別ファイル）

1. 論文：安倍首相のTPP交渉参加表明と医療への影響を読む－2年半のTPP論争の成果にも触れながら（「二木教授の医療時評（その112）」『文化連情報』2013年5月号（422号）：18-21頁）
2. 講演要旨：地域包括ケアシステムと今後の死亡場所－慢性期医療機関への期待にも触れながら」（2013年3月15日の日本慢性期医療協会役員を対象とした講演。「日慢協BLOG」（日本慢性期医療協会の公式ブログサイト）に2013年3月28日掲載。
<http://manseiki.net/?p=2068>)
3. インタビュー：学生は分野にとらわれず乱読を 対立意見も読んで自説を深めよ（「朝日新聞」2013年4月23日朝刊「広告月報 リーダーたちの本棚 Vol.49」）
補：「朝日新聞広告局」ホームページ トップインタビュー：「人間らしく幸せに生きるための“ふくし”」に込められた人材を育成
4. 日本福祉大学2013年度入学式・学長式辞（2013年4月1日。同日日本福祉大学のホームページに公開）
5. 日本福祉大学第30回開学記念式典・学長あいさつ（2013年4月25日。4月30日、日本

福祉大学のホームページに公開)

6. 論文「加藤幸雄先生と私ーバトンをしっかり引き継ぎます」(『(日本福祉大学) 社会福祉論集』第128号; 2013年3月31日。PDFファイル: 13加藤幸雄先生と私.pdf)
7. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算88回。2013年分その1: 6論文)
8. 私の好きな名言・警句の紹介(その101)ー最近知った名言・警句

107号: 2013.6.1 (22頁+PDFファイル2つ)

1. 論文: 日本の医療費水準はOECD平均になったのか?(『日本医事新報』2013年5月11日号(第4646号): 14-15頁。「深層を読む・真相を解く(23)」。図はPDFファイル)
2. インタビュー: 今後の医療機関の機能分化と地域包括ケアシステム(『JAHMC』(日本医業経営コンサルタント協会機関誌)2013年5月号(24巻5号): 2-6頁)
3. インタビュー: 【TPP識者の視点4】医療 薬価引き上げ現実味(「十勝毎日新聞」2013年5月16日)
4. インタビュー: 「ふくし」の精神、知識を(「読売新聞」2013年5月6日朝刊(中部版)、「未来を拓く大学(27) 日本福祉大学 二木立学長」)
5. 私の紹介記事: 医療政策の論客が愛唱する「よいとまけの唄」(『週刊東洋経済』臨時増刊「名古屋ものづくり宣言!」「日本と名古屋を変えるフロントランナー」107頁。PDFファイル: 1305東洋経済フロントランナー.pdf)。
6. エッセー: 名古屋に移り住んで27年ー住みやすい街です(『同窓会会報(東京医科歯科大学お茶の水会医科同窓会)』第258号: 38-39頁,2013年5月20日)
7. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算89回。2013年分その2: 5論文)
8. 私の好きな名言・警句の紹介(その102)ー最近知った名言・警句

108号: 2013.7.1 (15頁)

1. 論文: すべての政府文書から一時「保険外併用療養の拡大」が消失(「二木教授の医療時評(その113)」『文化連情報』2013年7月号(424号): 16-20頁)
2. 日本福祉大学文化講演会・学長開会挨拶(2013年6月9日。大学ホームページに公開)
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算90回。2013年分その3: 7論文)
4. 私の好きな名言・警句の紹介(その103)ー最近知った名言・警句

109号: 2013.8.1 (17頁)

1. 論文: 安倍内閣の「骨太方針」と「日本再興戦略」の医療・社会保障改革方針を読む(「二木学長の医療時評」(114)『文化連情報』2013年8月号(425号): 14-20頁)。
2. インタビュー: リハ医から転身した医療経済学者 地方私大の危機に立ちむかう(「日経メディカルオンライン」2013年7月10日) [『日経メディカル』2013年7月号に掲載された同名インタビューの増補版]

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算91回、2013年分その4：5論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その104）－最近知った名言・警句

110号：2013.9.1（23頁）

1. 論文：地方の中堅私大経営から見ると医療経営はうらやましい！（『日本医事新報』「深層を読む・真相を解く(25)」2013年7月27日号（4627号）：146-147頁）
2. 論文：参院選後の安倍内閣の医療政策を読む（『日本医事新報』「深層を読む・真相を解く(26)」2013年8月3日号（4658号）：26-27頁）
3. インタビュー：参院選の自民大勝で、医療政策はどう変わるか－安倍内閣の成長戦略と医療政策の今後の行方（『国際医薬品情報』2013年8月12日号（第991号）：12-15頁）
4. 論文：「福祉」から「ふくし」へ、そして「ふくしの総合大学」へ（『日本福祉大学同窓会会報』111号：47-49頁,2013年8月10日）
5. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算92回、2013年分その5：5論文）
6. 私の好きな名言・警句の紹介（その105）－最近知った名言・警句

111号：2013.10.1（36頁）

1. 論文：社会保障制度改革国民会議報告を複眼的に評価し「プログラム法案」を批判する（『文化連情報』2013年10月号（427号）：16-22頁）
2. 論文：私の行ってきた研究とその方法－60歳以降の研究の「重点移動」と著書「量産」の秘密（『現代と文化』（日本福祉大学福祉社会開発研究所）第128号：131-154頁,2013年9月30日）
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算93回、2013年分その6：6論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その106）－最近知った名言・警句

112号：2013.11.1（18頁＋別ファイル）

1. 論文：TPP参加が日本医療に与える影響－「今そこにある危機」と混合診療問題（「二木学長の医療時評」（117）『文化連情報』2013年11月号（428号）：6-13頁）
2. 最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介（その26）：11冊
3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文（通算94回、2013年分その7：5論文）
4. 私の好きな名言・警句の紹介（その107）－最近知った名言・警句

113号：2013.12.1（12頁＋別ファイル）

1. 論文：私が「保険外併用療養拡大」より「法定患者負担拡大」を危惧する理由（本文は、「深層を読む・真相を解く(28)」『日本医事新報』2013年10月26日号(4670号)：129-130頁。注は、「二木学長の医療時評」(118)『文化連情報』2013年

12月号(429号)：16-19頁)

2. 貧困研究会第6回研究大会・会場校学長挨拶(2013年11月9日)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文(通算95回、2013年分その8：6論文)

4. 私の好きな名言・警句の紹介(その108)ー最近知った名言・警句

補. 「ニューズレター」2013年総目次(102~113号、全12号)(別ファイル:13NL目次.doc)

ー医療経済・政策学関連の洋書・英語論文の目次、名言・警句の人名索引付き。

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2013年(102～113号)

最近出版された医療経済・政策学関連図書（洋書）のうち一読に値すると思うものの紹介

2013年目次：2回・合計18冊

104号(2013.3.1): (その25) : 7冊

○『コスト病—なぜコンピューターは安くなり、医療は安くないのか』

(Baumol WJ, et al: The Cost Disease - Why Computers Get Cheaper and Health Care Doesn't. Yale University Press, 2012, 249 pages)

○『医療技術の経済学（医療経済学と医療サービス研究の進歩 23巻）』

(Bolin K, Kaestner R (eds): The Economics of Medical Technology. Advances in Health Economics and Health Services Research Volume 23. Emerald, 2012, 198 pages) [研究論文集]

○『応用 [計量] 医療経済学』(Jones AM, et al: Applied Health Economics Second Edition. Routledge, 2013, 396 pages) [上級教科書]

○先進国と新興国における公的医療改革の経済学

(Clements B, et al: The Economics of Public Health Care Reform in Advanced and Emerging Economies. International Monetary Fund (IMF), 2012, 370 pages) [国際比較研究・論文集]

○『保健医療政策の形成 第2版』(Buse K, et al: Making Health Policy 2nd Edition, Open University Press, 2012, 212 pages) [初級教科書]

○『公衆衛生学年報 32巻, 2011』

(Fielding JE, et al (Eds): Annual Review of Public Health. Annual Reviews, 2011, 508 pages) [研究年報]

○『WHO患者安全カリキュラムガイド 多職種版』

(WHO Patient Curriculum guide: Multi-professional Edition 2011, WHO 2011, 272 pages. <http://www.who.int/patientsafety/education/curriculum/tools-download/en/index.html>)

112号(2013.11.1): (その26) : 11冊

○『医療における非合理—我々が行うことおよびその理由について行動経済学が明らかにしたこと』

Hough DE: Irrationality in Health Care - What Behavioral Economics Reveals about What We Do and Why. Stanford University Press, 2013, 291 pages. [教科書的研究書]

○『医療における制度・複雑系ハンドブック』

Sturmberg JP, Martin CM (eds.): Handbook of Systems and Complexity in Health. Springer, 2013, 954 pages. [論文集 (百科事典)]

○『医療経済学—国際的視点 [第3版]』

McPake B, Normand C, Smith S: Health Economics - An International Perspective Third Edition. Routledge, 2013, 294 pages) [中級教科書]

○『[サンテール] 医療経済学—理論、洞察、および産業分析 第6版』

Santerre RE, Neun SP: Health Economics - Theory, Insights, and Industry Studies 6th Edition. South-Western, 2013, 552 pages. [中級教科書]

○『ゲノム医学の経済学—ワークショップの要旨』

Institute of Medicine of the National Academies: The Economics of Genomic Medicine - Workshop Summary. The National Academies Press, 2013, 107 pages.

[ワークショップ報告書]

○『**体重と肥満の応用経済学**』

Taylor MP (ed): The Applied Economics of Weight and Obesity. Routledge, 2013, 134 pages. [研究論文選]

○『**医療ツーリズムと国境を越えた医療**』

Botterill D, Pennings G, Mainil T (eds): Medical Tourism and Transnational Health Care. Palgrave, 2013, 258 pages. [研究論文集]

○『**医療専門職の【国際】移動－医療制度、労働条件、医療労働者の移動パターン、そして政策作成者への含意**』

Tjadens F, Weilandt C, Eckert J: Mobility of Health Professionals - Health Systems, Work Conditions, Patterns of Health Workers' Mobility and Implications for Policy Makers. Springer, 2013, 167 pages. [調査研究書]

○『**医療の不正と疑わしい費用－調査選**』

Stallone MN (ed): Health Care Fraud and Questionable Costs - Select Investigations. Nova Publishers, 2013, 103 pages. [調査報告書]

○『**ヨーロッパにおける長期ケア政策の改革－制度的【・政治的】変化と社会的影響を調査する**』

Ranci C, Pavolini E (eds): Reforms in Long-Term Care Policies in Europe - Investigating Institutional Change and Social Impacts. Springer, 2013, 317 pages. [国際比較研究]

○『**高齢者の【施設】ケア：イングランドと日本の比較研究**』

Hayashi, Mayumi (林真由美): The Care of Older People: England and Japan, A Comparative Study. Pickering & Chatto, 2013, 291 pages. [研究書 (博士論文)]

104号:2013.3.1(金)

「二木立の医療経済・政策学関連ニュースレター」2013年(102~113号)

最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文目次:合計64論文

102号(2013.1.1)

6. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算85回. 2012年分その10:7論文)

○日本の国民皆保険下の医療アクセスの水平的不平等:1986-2007年

(Watanabe R(渡辺亮), Hashimoto H(橋本英樹): Horizontal inequality in healthcare under the universal coverage in 1986-2007. *Social Science & Medicine* 75 (8):1372-1378,2012) [量的研究]

○EU加盟国におけるプライマリケア・レベルの慢性疾患管理のための診療ガイドライン実施戦略の効果の評価

(Brusamento S, et al: Assessing the effectiveness of strategies to implement clinical guidelines for the management of chronic disease at primary care level in EU member states: A systematic review. *Health Policy* 107(2-3):168-183,2012) [体系的文献レビュー]

○【アメリカの】多くの効果比較研究が診療スタイルを変えることに失敗する5つの理由

(Timbie JW, et al: Five reasons that many comparative effectiveness studies fail to change patient care and clinical practice. *Health Affairs* 31 (10):2168-2175,2012) [文献レビュー・評論]

○【アメリカの】「【医療の質と費用に】責任を負う医療組織」(ACO)は1990年代の「統合【医療】提供ネットワーク」(IDN)の失敗を避けるのが難しいかもしれない

(Burns LR, et al: Accountable care organizations may have difficulty avoiding the failures of integrated delivery networks of the 1990s. *Health Affairs* 31 (11):2407-2416,2012) [評論]

○【オランダにおける急性期】病院の在院日数は患者満足度と相関しているか?

(Borghans I, et al: Is the length of stay in hospital correlated with patient satisfaction? *International Journal for Quality in Health Care* 24 (5):443-451,2012) [量的研究]

○病院の標準化死亡率という誤謬:ナラティブ・レビュー

(van Gestel YRB, et al: The hospital standardized mortality ratio fallacy: A narrative review. *Medical Care* 50 (8):662-667,2012) [文献レビュー]

○【アメリカの】不況は【家計】所得と就労に影響したにもかかわらず、【家計所得に占める】医療費【自己】負担割合が高い人々の割合はほとんど変化していない

(Cunningham PJ: Despite the recession's effects on incomes and jobs, the share of people with high medical costs was mostly unchanged. *Health Affairs* 31 (11):2563-2570,2012) [量的研究]

103号(2013.2.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算86回. 2012年分その11:5論文)

○【アメリカ】軍における禁煙のシミュレーションは生産性上昇で相殺される以上の生涯医療費増加を示している

(Yang W, et al: Simulation of quitting smoking in the military shows higher lifetime medical spending more than offset by productivity gains. *Health Affairs* 31 (12):2717-2726,2012) [量的研

究 (シミュレーション)]

○電子医療記録による [成人糖尿病の] 臨床的意思決定支援システムの費用対効果

(Gilmer TP, et al: Cost-effectiveness of an electronic medical record based clinical decision support system. Health Services Research 47 (6):2137-2158,2012) [量的研究]

○経済危機と政府医療費増加との間に統計的關係は存在するか? ヨーロッパ24か国の分析

(Cylus J, et al: Is there a statistical relationship between economic crises and changes in government health expenditure growth? An analysis of twenty-four European countries. Health Services Research 47 (6):2204-2223,2012) [国際比較研究・量的研究]

○韓国の民間医療保険: 国際比較

(Shin J: Private health insurance in South Korea: An international comparison. Health Policy 108 (1):76-85,2012) [量的研究]

○見当違いなことを心配する: [EUにおける] 患者の [国境を越えた] 移動対医療専門職の [国境を越えた] 移動

(Glinos I: Worrying about the wrong thing: Patient mobility versus mobility of health care professionals. Journal of Health Services Research and Policy 17 (4):254-255,2012) [評論]

104号(2013.3.1)

4. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算87回. 2012年分その12:7論文)

○医療技術評価アウトカムの異同: 5か国の比較研究と [新薬の] 給付決定への含意

(Nicod E, et al: Commonalities and differences in HTA outcomes: A comparative analysis of five countries and implications for coverage decisions. Health Policy 108 (2-3):167-177,2012) [国際比較研究]

○薬剤費用がカナダの健康アウトカムの決定要因であるとの見解の再検討

(Guindon GE, et al: A second look at pharmaceutical spending as determinants of health outcomes in Canada. Health Economics 21 (12):1477-1495,2012) [量的研究・論争]

○台湾の国民健康保険 [国民皆保険] が高齢者死亡率に与える影響: 再考

(Chang S: The effect of Taiwan's National Health Insurance on mortality of the elderly: Revisited. Health Economics 21 (11):1257-1270,2012) [量的研究]

○医療保険へのアクセス拡大が [アメリカの] 社会保障障害保険 [年金] 受給者の健康と死亡率に与える効果

(Weathers II, RR, et al: The effect of expanding access to health insurance on the health and mortality of social security disability insurance beneficiaries. Journal of Health Economics 31 (6):863-875,2012) [量的研究]

○ [アメリカにおける] 患者主導のメディカルホーム: 最近の研究のレビュー

(Hoff T, et al: The patient-centered medical home: A review of recent research. Medical Care Research and Review 69 (6):619-644,2012) [文献レビュー]

○特集 [イギリスとアメリカにおける終末期医療についてのワークショップ]

(Health Economics, Policy and Law 7 (4),2012)

○イングランドにおける病院に対する質に応じた支払いによる [院内] 死亡率低下

(Sutton M, et al: Reduced Mortality with Hospital Pay for Performance in England. New England Journal of Medicine 367 (19):1821-1828) [量的研究]

106号(2013.5.1)

**6. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算88回. 2013年分その1:6論文)**

**○ [アメリカの] メディケア加入者の終末期医療の変化—2000,2005,2009年の死亡場所、
[死亡前90日間に] ケアを受けていた場所、 [死亡直前の] 医療移送**

Teno JM, et al: Change in end-of-life care for Medicare beneficiaries - Site of death, place of care, and health care transitions in 2000, 2005, and 2009. JAMA 309 (5):470-477,2013. [量的研究]

○アメリカ医療は他のOECD加盟国に比べ、どのように、なぜ違うのか?

Fuchs VR: How and why US health care differs from that in other OECD countries. JAMA 309 (1):33-34,2013. [評論]

○質に応じた支払いについて真剣に考えるとき

Jha AK: Time to get serious about pay for performance. JAMA 309 (4):347-348,2013. [評論]

**○ [オランダにおける] 医療費増加: [1人・1月当たり] 医療費分布を分解し平均値 [の
分析] を超える**

de Meijer C, et al: Health expenditure growth: Looking beyond the average through decomposition of the full distribution. Journal of Health Economics 32 (1):88-105,2013. [量的研究]

○スイスとオランダの「消費者主導医療」: 理想的モデルか現実か?

Okma KGH, et al: Swiss and Dutch "consumer-driven health care": Ideal model or reality? Health Policy 109 (2):105-112,2013. [政策研究]

○OECD加盟国の1970~2010年の成人死亡率低下率のパフォーマンス

Verguet S, et al: Performance in rate of decline of adult mortality in th OECD, 1970-2010. Health Policy 109 (2):137-142,2013. [量的研究・国際比較]

107号(2013.6.1)

**7. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算89回. 2013年分その2:5論文)**

**○ヨーロッパの強力なプライマリケア・システムは国民の健康水準の高さだけでなく、高
医療費とも関連している**

Kringos DS, et al: Europe's strong primary care systems are linked to better population health but also to higher spending. Health Affairs 32 (4):686-694,2013. [国際比較研究・量的研究]

**○ [高所得] 11か国の調査データの分析により医療制度のパフォーマンスについての [個
人的] 「満足度」はさまざまなことを意味していることが分かった**

Papanicolas I, et al: An analysis of survey data from eleven countries finds that 'satisfaction' with health system performance means many things. Health Affairs 32 (4):734-742,2013 [国際比較研究・量的研究]

**○医療施設建設とサービス・マネジメントについてのヨーロッパの公私パートナーシップ
の結果は明暗まちまちである**

Barlow J, et al: Europe sees mixed results from public-private partnerships for building and managing health care facilities and services. *Health Affairs* 32 (1):146-154,2013. [評論]

○ **【アメリカの】 職場におけるウェルネスの誘因：不健康な労働者への費用移転による費用削減**

Horwitz JR, et al: Wellness incentives in the workplace: Cost savings through cost shifting to unhealthy workers. *Health Affairs* 32 (3):468-476,2013. [文献レビュー]

○ **【アメリカの】 ある病院システムの医療保険とリンクしたウェルネス・プログラムは入院を減らしたが総費用は減らせなかった**

Gowrisankaran G, et al: A hospital system's wellness program linked to health plan enrollment cut hospitalizations but not overall costs. *Health Affairs* 32 (3):477-485,2013. [事例調査・量的研究]

108号(2013.7.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算90回. 2013年分その3:7論文)**

○ **ドイツの病院の統合と集中：コインの両側面**

Schmid A, et al: Consolidation and concentration in the German hospital market: The two sides of the coin. *Health Policy* 109 (3):301-310,2013. [政策研究・量的研究]

○ **ドイツ医薬品市場の構造改革：初期の効果評価に基づいた価格設定メカニズム**

Henschke C, et al: Structural changes in the German pharmaceutical market: Price setting mechanism based on the early benefit evaluation. *Health Policy* 109 (3):263-269,2013. [政策研究]

○ **【ドイツの】 入院緩和ケア：全国調査**

Gaertner J, et al: Inpatient palliative care: A nationwide analysis. *Health Policy* 109 (3):311-318,2013. [量的調査]

○ **ヨーロッパにおける法定医療保険の競争：4か国比較**

Thomson S, et al: Statutory health insurance competition in Europe: A four-country comparison. *Health Policy* 109 (3):209-225,2013. [国際比較研究]

○ **医療技術評価と医療給付決定における市民参加：フランス、ドイツ、イギリスの経験の研究**

Kreis J, et al: Public engagement in health technology assessment and coverage decisions: A study of experiences in France, Germany, and the United Kingdom. *Journal of Health Politics, Policy and Law* 38 (1):89-122,2013. [国際比較研究]

○ **コストシフト説に反して、【アメリカの】メディケア入院医療価格の引き下げは私保険の医療価格の低下をもたらす**

White C: Contrary to cost-shift theory, lower Medicare hospital payment rates for inpatient care lead to lower private payment rates. *Health Affairs* 32 (5):935-943,2013. [量的研究]

○ **【アメリカの】 2009～2011年の医療費伸び率の低下は景気低迷以外の要因も反映しており、それだけに継続するかもしれない**

Ryu AJ, et al: The slowdown in health care spending in 2009-11 reflected factors other than the weak economy and thus may persist. [量的研究]

109号(2013.8.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算91回, 2013年分その4:5論文)

○ [アメリカの] メディケアはFDAが承認した医療機器と医薬品の大半を給付対象にしているが、制限と不一致は残っている

Chambers J, et al: Medicare covers the majority of FDA-approved devices and Part B drugs, but restrictions and discrepancies remain. Health Affairs 32 (6):1109-1115,2013. [政策研究]

○ [アメリカにおいて] 再入院率を入院の質測定で用いることに限界があることは他の尺度を加える必要を示唆している

Press MJ, et al: Limits of readmission rates in measuring hospital quality suggest the need for added metrics. Health Affairs 32 (6):1083-1091,2013. [量的研究]

○ [アメリカの] 労働参加を目的とする福祉プログラムは死亡率に負の影響を与える可能性がある

Muennig P, et al: Welfare programs that target workforce participation may negatively affect mortality. Health Affairs 32 (6):1072-1077,2013. [量的研究]

○医療における質に応じた評価 [P4P] の効果：文献レビューの文献レビュー

Eijkenaar F, et al: Effects of pay for performance in health care: A systematic review of systematic review. Health Policy 110 (2-3):115-130,2013. [文献レビュー]

○イタリアにおける] 一般医と病院費用 [の関係] :我々は [一般医対象のP4Pを用いた] 費用抑制プログラムをまだ続けるべきか?

Fiorentini G, et al: GPs and hospital expenditures. Should we keep expenditure containment programs alive? Social Science & Medicine 82:10-20,2013. [量的研究]

110号(2013.9.1)

5. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算92回, 2013年分その5:5論文)

○プラシーボを対照とした [新薬の治療効果の] 低下は効果比較研究における新しい方向を示唆している

Olfson M, et al: Decline in placebo-controlled trial results suggests new directions for comparative effectiveness research. Health Affairs 32 (6):1116-1125,2013. [量的研究]

○ [アメリカにおける] 電子医療記録の医療費への影響：地域での実践から得られた縦断的比較のエビデンス

Adler-Milstein, J, et al: Effect of electronic health records on health care costs: Longitudinal comparative evidence from community practices. Annals of Internal Medicine 159 (2):97-104,2013. [量的研究]

○ヨーロッパの50歳以上人口における民間医療保険

Paccagnella O, et al: Voluntary private health insurance among the over 50s in Europe. Health Economics 22 (3):289-315,2013. [量的研究]

○カナダの家計における私費負担医療費の増加

Law MR, et al: Growth in private payments for health care by Canadian households. Health Policy

110(2-3):141-146,2013. [量的研究]

○フィンランドにおける1985～2005年の処方薬・一般薬の自己負担額と〔家計〕所得に対する割合の趨勢

Aaltonen K, et al: Trends and income related differences in out-of-pocket costs for prescription and over-the-counter medicines in Finland from 1985 to 2006. Health Policy 110(2-3):131-140,2013. [量的研究]

111号(2013.10.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算93回. 2013年分その6:6論文)**

○ICT〔情報通信技術〕の統合的医療供給における役割を探るー〔ヨーロッパ〕8か国からのエビデンス

Lluch M, et al: Exploring the role of ICT in the provision of integrated care - Evidence from eight countries. Health Policy 111(1):1-13,2013. [文献レビュー]

○病院閉鎖と合併に関連する諸要因：オランダの病院の1978～2010年の生存分析

den Hartog M, et al: Factors associated with hospital closure and merger: A survival analysis of Dutch hospitals from 1978 to 2010. Health Services Management Research 26(1):1-8,2013 [量的研究]

○〔アメリカにおける〕人口高齢化と救急部門：受診件数は増えないが、診療時間と入院は増加する見込み

Pallin DJ, et al: Population aging and emergency departments: Visits will not increase, length-of-stay and hospitalizations will. Health Affairs 32(7):1306-1312,2013. [量的研究 (シミュレーション)]

○〔アメリカにおける〕脳卒中、下肢骨折、下肢関節置換術の入院リハビリテーションにおける量〔施設当たりの取扱い患者数〕と機能的アウトカム〔との関連〕

Graham JE, et al: Inpatient rehabilitation volume and functional outcomes in stroke, lower extremity fracture, and lower extremity joint replacement. Medical Care 51(5):404-412, 2013. [量的研究]

○〔アメリカにおける〕価値基準の〔医療〕保険のデザイン：質は改善されたが、費用節減は起きなかった

Lee JL, et al: Value-based insurance design: Quality improvement but no cost savings. Health Affairs 32(7):1251-1257,2013 [文献レビュー]

○景気後退と人々の健康：景気後退が身体的・精神的健康に与える影響についての大量の研究

Anonym: Recessions and public health Body of Research. The impact of downturns on physical and mental health. The Economist August 24th, 2013:pp.59-60. [レポート (文献紹介)]

112号(2013.11.1)

**3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文
(通算94回. 2013年分その7:5論文)**

○健康と医療の行動経済学

Rice T: The behavioral economics of health and health care. Annual Review of Public Health 34:431-447,2013. [総説]

○【アメリカの】医療改革における協調と競争

Baicker K, et al: Coordination versus competition in health care reform. New England Journal of Medicine 369(9):789-791,2013. [評論]

○【アメリカにおける】太りすぎの被用者の体重減少が健康、生産性および医療費に与える影響

Bilger M, et al: The effect of weight loss on health, productivity, and medical expenditures among overweight employees. Medical Care 51(6):471-477,2013. [量的研究]

○日本の急性期病院における高齢者の入院期間の延長に関連した諸要因：大腿骨頸部骨折患者のマルチレベル分析

Motohashi T (本橋隆子), et al: Factors associated with prolonged length of hospital stay of elderly patients in acute care hospitals in Japan: A multilevel analysis of patients with femoral neck fracture. Health Policy 111(1):60-67,2013. [量的研究]

○日本の脳卒中の入院患者数と死亡率・医療費との関連

Tsugawa Y (津川友介), et al: The association of hospital volume with mortality and costs of care for stroke in Japan. Medical Care 51(9):782-788,2013. [量的研究]

113号(2013.12.1)

3. 最近発表された興味ある医療経済・政策学関連の英語論文

(通算95回、2013年分その8:6論文)

○【アメリカにおける】大規模グループ診療参加医師の割合は2009～2011年にも増加し続けていた

Welch WP, et al: Proportion of physicians in large group practices continued to grow in 2009-11. Health Affairs 32(9):1659-1666,2013. [量的研究]

○【オーストラリアにおける】医療費の変動を説明する：リンクされた調査と保健医療の行政データを用いた大規模標本のエビデンス

Ellis RP, et al: Explaining health care expenditure variation: Large-sample evidence using linked survey and health administrative data. Health Economics 22(9):1093-1110,2013. [量的研究]

○医療的・社会的ケア計画におけるケア・バランス手法：体系的文献レビューから得られた教訓

Tucker S, et al: The balance of care approach to health and social care planning: Lessons from a systematic literature review. Health Services Management Research 26(1):18-28,2013. [文献レビュー]

○医療制度の政策形成についての体系的文献レビューについての12の神話を論破する

Moat KA, et al: Twelve myths about systematic reviews for health system policymaking rebutted. Journal of Health Services Research and Policy 18(1):44-50,2013. [評論・小文献レビュー]

○経済的圧力の源泉とフランスの公立病院医師の【診断関連群分類に基づいた診療報酬支払いにおける】アップコーディング行動

Georgescu I, et al: Sources of financial pressure and up coding behavior in French public hospitals. Health Policy 110(3-3):156-163,2013. [質的・量的研究]

○数字以上 [のものがある] ? 医療経済学における質的研究

Obermann K, et al: More than figures? Qualitative research in health economics. Health Economics 22(3):253-257,2013. [評論]

「二木立の医療経済・政策学関連ニューズレター」2013年（102～113号）

「私の好きな名言・警句の紹介」2013年分 人名索引

注：カッコ内は「ニューズレター」の号数。各行ごとに「ニューズレター」掲載順。外国人は姓のみ（ただし例外あり。例：トム・クルーズ）。映画・テレビドラマ・芝居のセリフはその名称（「」表示）。カッコ内の(A=B)：B号で初めて紹介したもののA号での再掲。

あ行

アインシュタイン(102),五木寛之(102),宇野重規(102),明石海人(103),大木隆生(103),荻野由信(103),青木秀憲(103),阿部謹也(103=27,100),岩田松雄(103),鶴飼哲夫(104),イチロー(104,111),宇都宮健児(105),梅原猛(106),乙武洋匡(106),オバマ,B(106),植草一秀(107,110),大島堅一(107),猪瀬直樹(107),稲田龍一(107=49・82),天野篤(107),大木隆生(107),池波正太郎(107),石ノ森章太郎(108),上田敏(108,110),小木貞孝(108),伊藤真(108),小野正嗣(109),内田樹(109),安倍昭恵(109),ウルマン,S(109),井上ひさし(110),納光弘(110),ヴァレリー,P(111),大平政樹(112),落合博満(113),岩井克人(113),大津雄一(113)

か行

キャリア,T(102),カップ,KW(104=9),上鶴瀬浄(104),権丈善一(105),小島寛之(105),コシノジュンコ(105),熊谷榎(105),小林節(107),骨コツ(107),加藤周一(108),今野敏(108),加藤友朗(108),加賀乙彦(108),金田一秀穂(108),孔子(108),北城恪太郎(108),楠木健(108),近藤誠一(109),小泉進次郎(109),木村久(110),グラック,C(111),木内昇(111),古城資久(111),熊谷政之(111),「風立ちぬ」(112),コース,R(112)

さ行

坂口さゆり(102),佐瀬卓也(102),関満博(102),佐々木則夫(103),スキデルスキー,R104),清家篤(104),斉藤誠(105),サルトル,JP(108),齊藤康(108),鈴木敏夫(109),千田耕一(109),佐久間昭(110),鈴木邦男(110),桜木紫乃(111),ジータ,D(111),澤田勝寛(111),島田(嶋田)豊(112),斎藤貴男(112),下重暁子(112),ストーン,O(112),佐藤藍子(113=8),三枝達実(113),坂素行(113),「サマータイム・ブルース」(113)

た行

武谷三男(102),哲(102=31),俵万智(103),大鵬(103),富田和彦(104),高橋源一郎(106),寺田寅彦(108),タモリ(110),高橋伸彰(110),寺本玄同(113)

な行

野中郁次郎(102,104),納谷幸喜(103),ノイマン,JF(105),二木立(105,106,107,109,110,111,113),中村計(106),中坊公平(109),中山七里(110),野谷茂樹(110),中澤正夫(111),新美南吉(113)

は行

浜六郎(102=31),白鳳(102,106,110),日馬富士の父(102),原昌平(103),長谷部葉子(103),羽生善治(103,104,109),本田宗一郎(104),林修(106),フランシスコ・ローマ法王(106),初沢亜利(107),莫言(107),プリニウス(108),平野真一(108),ホイーラー,J(109),藤野可織(110),尾藤

誠司(110),福田恆存(110),ブレイルズフォード,HN(112),福山雅治(112),パンディタ,S(113)

ま行

益川敏英(102),マルクス,K(102),森光子(102),森脇浩司(102),マータイ,W(102),室井滋(103),美輪明宏(104),モルゲンシュテルン,O(105),マーシャル,A(105),森亘(106),村松良一(106),三谷太一郎(107),丸山眞男(107),丸山オー(107),松木昭和(107),本村雄一郎(108),村上稔(109),前川亨(109),本池英人(110),宮崎駿(111,113),宗岡正二(111),森浩一(113),諸熊奎治(113),松井朝子(113)

や行

安岡章太郎(103),湯浅誠(103),山田洋次(104),米長邦雄(104),吉見俊哉(106),山本昌(106),山田正雄(106),養老猛司(107),柳井正(108),山田孝男(109),やなせたかし(113)

ら行

レーニン(106)

わ行

山中伸哉(102),ウェーバー,M(105),渡辺和子(105),鷲田清一(106)

